

昭 至 自 至 自 昭													
20 19													
年													
月													
日													
8	8	7	6	6	6	6	5	4	1	9	7	6	6
15	9	1	29	19	16	14	13	13	12	1	初	30	1
<p>通称号 陣才二九九三部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲才三六号により編成下令。 北支、河北省保定において、独立混成才一五旅団、独立歩兵才七八大隊を基幹として編成完結。 河北省高陽県高陽に移駐。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 河南作戦に基づく討伐に参加。 満洲移駐のため主力河北省保定出発。 山海関通過。 主力興安南省、錢家店着、同地付近の警備。 部隊の主力(才五中隊欠)は、熱河省に移駐のため錢家店出発。 熱河省承德着、同地を基点として萬里長城付近(古北口)の討伐。 日「ソ」開戦とともに錦州省錦州市に移駐後、才一〇八師団長の命により朝陽に移動、同地において陣地構築。 錦州省朝陽において停戦。</p>													
摘要													

独立歩兵第七八大隊略歴

0949

至 自											
10	9	9	8	8	11	10	9	9	8	8	8
20	15		15	12	30	8	25	10	28	20	18
<p>奉天市に移駐。</p> <p>奉天市発。</p> <p>錦州市着。</p> <p>錦州市において武装解除。</p> <p>同地において才六作業大隊に編入。</p> <p>錦州出發。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>才五中隊は、奉天に移駐、同地において陣地構築。</p> <p>奉天市（東陵）において停戦。</p> <p>同地において才三作業大隊に編入。</p> <p>奉天出發。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p>											
<p>大隊長 初代 中佐 阿久力川 赳夫</p> <p>二代 小田 二郎</p>											

0950

至自至自至自至自											昭	年	月	日	略	歴	摘	要
昭											18							
20											19							
8	8	6	6	6	6	5	5	4	12	11	6	4	12	9	7	6	6	<p>通称号 陣才二九九四部隊</p> <p>独立歩兵第七九大隊略歴</p>
15	13	19	17	16	5	22	16	18	28	17	30	24	9	9	初	30	1	
<p>軍令陸甲才三六号により編成下令。</p> <p>独立混成才一五旅団、独立歩兵才七九大隊を基幹として北支、河北省保定において編成完結。</p> <p>保定より易県に移駐。</p> <p>昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>河南作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>昭和十九年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>燕京道作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>北支、霸県地区周辺作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>満洲に移駐のため主力河北省定興発。</p> <p>山海関通過。</p> <p>主力興安南省通遼県大林村着、同地の警備。</p> <p>奉天省、文官屯に移駐。</p> <p>文官屯において武装解除。</p>																		

0951

	9	9	8
	26	11	20
<p>大隊長 初代 少佐 山村</p> <p>二代 “ 矢 萩 留次郎</p>	<p>奉天（北陵大学校）に移動、同地編成の作業才五大隊に編入。</p> <p>奉天出發。</p> <p>黒河経由入「ソ」。</p>		

0952

至自至自至自自													昭	年 月 日	独立歩兵第一三七大隊略歴	
昭													18			
6	6	4	12	11	9	4	12	9	6	6	6	6	6			6
13	11	21		30	11	2	1	23	20	19	18	16	15	14	7	1
滿洲に移駐のため、主力河北省新樂県東長寿発。 燕京道作戦に基づく討伐に参加。 昭和十九年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 河南および京漢作戦に基づく討伐に参加。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 北支、任邱着、同日より同地付近の警備。 北支、河北省保定着。 山海関通過。 安東通過。 釜山通過。 下関港出帆。 福島県郡山発。 昭和十八年軍令陸甲才三六号により編成下令。 福島県郡山において編成完結。													略	歴		
													摘	要		

0953

至自至自自											昭	年	月	日	独立歩兵第二四大隊略歴	通称号 陣才四二八五部隊
昭 昭											18					
20 19											6	6				
8	8	8	6	6	6	6	6	4	8	4	12	9	6	6		
30	20	16	13	13	12	10	10	23	31	8	6	9	30	1		
<p>奉天市北陵に集結。</p> <p>同地において武装解除。</p> <p>文官屯着。</p> <p>日「ソ」開戦により奉天地区防衛のため通遼出発。</p> <p>主力興安南省、通遼県通遼着。</p> <p>満支国境山海関通過。</p> <p>満洲に移駐のため、主力芦溝橋（北京の西方）出発。</p> <p>燕京道作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>京漢ならびに河南作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>同日より、門頭溝付近の警備。</p> <p>北支、河北省苑平県門頭溝において、独立混成才六旅団、独立歩兵才二四大隊を基幹として編成完結。</p> <p>軍令陸甲才三六号により編成下令。</p>																
<p>略歴</p>																
<p>摘要</p>																

0957

		9	9
		25	7
			3
	<p>大隊長 大尉 圃 光 孝</p>	<p>黒河經由入「ソ」。</p>	<p>奉天発。</p>
			<p>主力は奉天才七作業大隊に編入。</p>

三十一

0958

	9	9	8	8
	25	7	31	20
<p>大隊長 大尉 真柄 義 数</p> <p>奉天市において武装解除。 同市北陵に集結、部隊の主力は、奉天才七作業大隊に編入。 同地発。 黒河経由入「ソ」。</p>				

0960

昭 18											年 月 日	独立歩兵第八〇大隊略歴				
自 昭 20																
8	8	8	8	6	6	6	6	2	7	4	10	9	6	6	略 歴	通称号 陣才二九九五部隊
30	18	15	14	16	14	13	10	24	20	30	28	30	1	摘 要		
<p>軍令陸甲才三六号により編成下令。 北支河北省三河において、独立混成才一五旅団、独立歩兵才八〇大隊を基幹として編成完結。 同日より、同地付近の警備。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 京漢ならびに河南作戦に基づく討伐に参加。 燕京道作戦に基づく討伐に参加。 満洲に移駐のため、主力北支、通州出發。 満支国境山海関通過。 主力興安南省、通遼県木里図着、同地付近の警備。 木里図出發。 奉天省、文官屯着 文官屯において武装解除、奉天に移動。 奉天（北陵大学）において奉天才九作業大隊に編入。</p>																

0961

	11	9
	28	30
大隊長 少佐 山川 吉春	黒河経由入「ソ」。	奉天出發。

1980

0962

昭 18											年 月 日	独立歩兵第八一大隊略歴			
自 昭 19															
自 昭 20															
9	8	8	8	6	6	6	6	6	4	4	6	6		通称号 陣才二九九六部隊 略 歴 軍令陸甲才三六号により編成下令。 北支、密雲において、独立混成才一五旅団、独立歩兵才八一大隊を基幹として編成完結。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 河南ならびに京漢作戦に基づく討伐に参加。 燕京道地区作戦に基づく討伐に参加。 満洲に移駐のため、主力北支、河北省順義出發。 満支国境山海関通過。 主力興安南省通遼東通遼着、同地付近の警備。 興安西省、開魯警備のため同地に移駐、同日より同地付近の警備。 奉天警備のため、開魯出發、同日奉天市着。 奉天市において武装解除。 奉天市北陵に移動。 同地において才一〇作業大隊に編入。	
2	30	16	11	18	17	16	15	14	13	15	8	30	1		
摘要															

0963

至自											昭	年 月 日	第六三師団迫撃砲兵隊略歴 通称号 陣才一四九七部隊											
											20													
10	9	9	9	8	8	6	6	6	3	2	1													
											20	15	7	5	20	12	17	13	12	15	1	略	歴	摘 要
<p> 黒河經由入「ソ」。 同地出發。 同地において才三、才一一作業大隊に編入。 奉天（東陵）において武装解除。 同地において才三、才一一作業大隊に編入。 錢家店出發、奉天（東陵）に移動陣地構築。 主力興安南省、通遼県錢家店着。 満支国境山海関通過。 満洲に移駐のため、主力北京出發。 同日より同地区付近の警備。 北京において、才六三師団隷下の各独立歩兵大隊の人員をもつて編成完結。 軍令陸甲才一八号により編成下令。 </p>											<p> 迫撃砲隊長 大尉 国 中 利 夫 </p>													

0965

至自至自至自											至自至自自 昭 昭 20 19		昭 18		年 月 日	第六三師団工兵隊略歴		
10	109	99	9	9	8	8	6	6	6	6	510	311	9	6			6	通称号 陣才二九九八部隊
18	320	1819	17	15	12	16	1414	1212	101	1418	18	30	1	略 歴				
<p>軍令陸甲才三六号により編成下令。 北支河北省豊台において独立混成才一五旅団、工兵隊を基幹として編成完結。 同日より同地付近の警備。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。 京漢ならびに河南作戦に基づく討伐に参加。 燕京道地区作戦に基づく討伐に参加。 満洲に移駐のため、主力北支、通州出發。 興安南省、通遼界通遼着。 通遼出發。奉天に移駐。 奉天において武装解除。 北陵に移動、同地において才一、才三七作業大隊に編入。 奉天出發。 黒河経由入「ソ」。</p>															摘 要			

0966

至自至自至自													至自至自 昭 19			昭 18		年 月 日	略 歴
10	10	9	9	9	8	8	8	6	6	6	6	4	12	8	6	6			
18	3	20	18	19	17	25	20	14	18	16	14	30	43	1	29	30	1		
<p>奉天に移動。</p> <p>同日より同地付近の警備。</p> <p>昭和十八年秋季冀西作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>河南および京漢作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>満洲に移駐のため、主力北京出發。</p> <p>満支、国境、山海関通過。</p> <p>主力興安南省、通遼着、同地付近の警備。</p> <p>奉天に移動。</p> <p>同地において武装解除。</p> <p>北陵収容所に移動。</p> <p>部隊の主力は、才一、才三七作業大隊に編入。</p> <p>北陵出發。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p>													軍令陸甲才三六号により編成下令。		北京において輜重兵才三五連隊を基幹として編成完結。		略 歴		
													摘要		略 歴				

第六三師団輜重隊略歴

通称号 陣才二九九七部隊

略歴

摘要

0968

	10 9
	3 18
	北陵出発。 黒河経由入「ソ」。
通信隊長	初代 大尉 小山 信一
二代	〃 小島 梅太郎

0971

至自											昭 18		年 月 日	第六三師団野戦病院略歴 通称号 陣才二九三二部隊			
昭 20											自 19				略		
自 19											自 18					歴	
11	11	11	10	8	8	8	6	6	6	11	3	11	9	6	6		<p>軍令陸甲才三六号により編成下令。 北支河北省豊台において才三五師団野戦病院を基幹として編成完結。 同日より同地において担任業務に従事。 昭和十八年秋季冀西作戦に基づき討伐に参加。 京漢ならびに河南作戦に基づき討伐に参加。 満洲に移駐のため、北支、定県出發。 満支国境山海関通過。 興安南省、通遼着。 通遼出發、奉天着。 奉天において武装解除。 奉天（北陵）に集結。 同地において才五五、才五六作業大隊に編入。 才五五作業大隊奉天出發。 満洲里經由入「ソ」。</p>
20	7	5	5	30	20	12	30	24	28	21	26	19	24	13	0	1	

0972

	11	10
	22	8
病院長 少佐 大久保 一郎		才五六作業大隊奉天出發。 黒河経由入「ソ」。

0973

至自												昭至自昭		昭		年 月 日	略 歴	通称号 陣才四二八八部隊	第六三師団病馬廠略歴
												20 19		18					
11	11	11	10	8	8	8	8	6	6	6	9	5	6	6					
20	7	5	5	30	20	15	12		12	11	10	5	25	30	1				
<p>同地で停戦。</p> <p>文官屯に移動、同日武装解除。</p> <p>奉天（北陵）に移動。</p> <p>奉天（北陵）において、才五五、才五六作業大隊に編入。</p> <p>才五五作業大隊奉天出發。</p> <p>満洲里經由入「ソ」。</p>												<p>軍令陸甲才三六号により編成下令。</p> <p>北支河北省保定において才三五師団病馬廠を基幹として編成完結。</p> <p>同日より、同地付近の警備。</p> <p>河南作戦に基づく討伐に参加。</p> <p>満洲に移駐のため、保定出發。</p> <p>満支国境、山海関通過。</p> <p>興安南省、通遼県通遼着、同地付近の警備。</p> <p>奉天（東陵）に移動。</p>		<p>同日より、同地付近の警備。</p>					
																摘	要		

0974

	11	10
	22	8
廠長 獸大尉 東 口 力 小 才五六作業大隊奉天出發。 黒河経由入「ソ」。		

800

0975

		昭 19		昭 20							
		年		月		日					
		11	9	9	9	8	8	7	7	10	10
		21	29	23	17	5	3	8	3	28	11
		<p>独立野砲第一四大隊略歴</p> <p>通称号 満才四九〇部隊 速征才一四〇二三部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲才一三五号により編成下令。 興安北省海拉爾において才八国境守備隊よりの差出人員を基幹として編成完結。 先発隊海拉爾出發。 四平省昌図着。 主力海拉爾出發。 四平省昌図着。 爾後同地において陣地構築。 昌図において武装解除。 四平作業才一五大隊編入。 四平駅出發。 黒河経由入「ソ」。</p> <p>隊長 少佐 滝 熊太郎</p>									
		摘要									

0976

昭 20													昭 16		年 月 日	患者輸送第五五小隊略歴 通称号 遠征才八二〇五部隊	
8	8	8	8	7	9	9	8	8	8	8	8	7	7	略			歴
21	15	14	12	20	23	22	26	26	24	20	17	30	16			特臨編才一六令附才一二三号により編成下令。 京都、伏見において編成完結。 神戸港出発。 大連港上陸。 関東州界通過。 興安北省界通過。 興安北省免渡河着。 免渡河出発。 海拉爾着。 海拉爾発、龍江省白城子着。 白城子発、白城子陸軍病院と行動を共にする。 新京を経て奉天着、白城子陸軍病院の業務援助。 停戦。 奉天において武装解除、依然病院業務を続行。	
														摘	要		

0977

	昭		
	21		
	5	5	10
	30	29	27
隊長 大尉 野中 享	奉天出発、コロ島經由帰還。	帰還のため病院を閉鎖。	奉天北陵に收容され一部中共軍に連行さる。

昭 21		昭 20		昭 15		年 月 日	略 歴
5 30	5 29	8 20	8 15	8 13	8 11		
<p>病院長 軍医少佐 西川為雄</p>		<p>奉天出発、コロ島經由帰還。</p>		<p>帰還のため病院を閉鎖。</p>		<p>病院は依然病院業務を続行。</p>	
		<p>奉天において武装解除。</p>		<p>停戦。</p>		<p>白城子陸軍病院は奉天彌生国民学校において奉天才二病院として病院を開設。</p>	
		<p>奉天に到着、患者は全員奉天陸軍病院に転送。</p>		<p>奉天に移動のため白城子出発。</p>		<p>主として所在部隊および西満地区の患者の收容、および治療の業務実施。</p>	
		<p>白城子において編成完結。</p>		<p>軍令陸甲才一四号により編成下令。</p>		<p>略歴</p>	
		<p>通称号 速征才一一一六七部隊</p>		<p>(関東軍才三一陸軍病院) 満才八九七部隊</p>		<p>白城子陸軍病院略歴</p>	
		<p>摘要</p>					

0979

昭 20	年 月 日	略 歴
至自至自至自		
9 9 9 9 9 8 8	3 1	
15 10 13 8 7 2 17 9	10 16	
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 黒河省孫呉において独立混成第七三旅団司令部の人員を基幹として編成完結。 爾後同地付近の警備および陣地構築。 日「ソ」開戦にともない花見山陣地に配備。 北孫呉において武装解除。 孫呉において第三、第七作業大隊に編入。 孫呉出發。 黒河經由入「ソ」。</p> <p>師団長 中将 北 沢 貞 次 郎</p>		
		摘 要

第一二三師団司令部略歴

通称号

満 第八二二部隊
松風第一五二〇一部隊

0980

至自至自至自										昭	年 月 日	歩兵第二六八連隊略歴 通称号 満第九八一部隊 松風第一五二〇二部隊
9	9	9	9	9	8	8	8	8	3	1		
30	10	27	6	12	4	20	18	12	9	10		
<p>孫具出発。 第一、第二、第一二、作業大隊にそれぞれ編入。 北孫具官舎街に収容 孫具において武装解除。 十三日呉家窩堡において「ソ」軍の急襲をうけて甚大な損害をうけた。 第五中隊は本間大隊救援のため、相模山に派遣され、爾後陣地に後退途中八月 開戦後連日「ソ」軍の攻撃をうけたが損害は軽微であつた。 日「ソ」開戦にともない主力は荒神山、北水台、清澄山等の陣地に配備され、 爾後部隊は同地付近の警備および陣地構築。 孫具において編成完結。</p>										<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 独立歩兵第四四八大隊および独立歩兵第四四九大隊の人員を基幹として黒河省</p>		
<p>黒河経由入「ソ」。</p>										<p>略 歴</p>		<p>摘 要</p>

0981

733の2

連隊長

大佐
山中
高助

0982

昭和20年		略	歴	摘要
月	日			
1	16	10	3	1
2	10	3	1	1
3	10	3	1	1
4	中旬	3	1	1
5	7	3	1	1
6	7	3	1	1
7	7	3	1	1
8	9	3	1	1
9	9	3	1	1
10	9	3	1	1
11	9	3	1	1
12	9	3	1	1

通称号 満第六八六部隊
松風第一五二〇三部隊

軍令陸甲第九号により編成下令。
独立歩兵第四四五大隊、第四四七大隊の人員を基幹として北安省北安において編成完結。
黒河省孫呉に移駐。
爾後同地付近の警備ならびに陣地構築。
軍令陸甲第一〇六号により編成改正下令。
第一大隊所屬者は歩兵第三八六連隊に改編され、第五国境守備隊の人員をもつて第一大隊を編成した。
日ソ開戦時以後の状況
連隊本部第二大隊
孫呉花見山陣地に配備
主力は孫呉、一部は北安において武装解除。
第一大隊
勝山、河西、秋月山陣地等において陣地構築中日「ソ」開戦。

0983

至自 至自

10 9 9 9 8 8

30 8 15 4 17 12

孫呉および北安において武装解除。

第三大隊

本部は孫呉、主力は相模山に配備し一部を黒竜江岸に哈太陽、霍爾膜津、烏雲等一五ヶ所に監視哨を配備。

相模山に集結。

孫呉において武装解除。

北安および孫呉においてそれぞれ作大に編入。

黒河経由入「ソ」。

連隊長

大佐 後藤三平

0984

至自至自		昭 20	年 月 日	歩兵第二七〇連隊略歴 通称号 満第一一一部隊 松風第一五二〇四部隊					
9	9	9			8	8	8	3	1
15	5	13			3	2	20	18	9
<p>連隊長 大佐 太田 紀一</p>		<p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>孫具出発。</p> <p>終戦、同日第三、第四、第五作業大隊に編入。</p> <p>孫具官舎に収容</p> <p>孫具において武装解除。</p> <p>日「ソ」開戦にともない東風山、香取山、二条山陣地にそれぞれ配備された。</p>		<p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>独立歩兵第四四六大隊の人員を基幹として黒河省孫具において編成完結。</p> <p>爾後同地付近の警備および陣地構築に従事。</p>		略	歴	摘 要	

0985

昭和20年		略	歴	摘要
年	月日			
7	7			
7	30		軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 黒河省孫具において師団各隊よりの差出人員をもつて編成完結。 爾後孫具付近の警備ならびに陣地構築。	
8	9		日「ソ」開戦にともない秋月山（孫具嶺）で「ソ」軍と交戦。	
8	17		孫具に撤退途中一本松高地において「ソ」軍の急襲をうけて多数の損害をうけた。	
8	18		孫具において武装解除。	
9	14		孫具において第五作業大隊に編入。	
9	15		黒河經由入「ソ」。	
		大隊長		
		少佐 露木 甚造		

第一二三師団挺進大隊略歴

通称号 松風第一五二九五部隊

0986

至自		昭	年	月	日	略	歴	摘要
		20						
9 9 9 8	8 7 3 1							
16 15 4 18	9 10 10 16							
<p>連隊長 中佐 町田賢助</p> <p>孫具において武装解除。 孫具において第四、建第四、第一七、作業大隊にそれぞれ編入。 黒河経由入「ソ」。</p>		<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 孫具において独立混成第七三旅団砲兵隊の人員を基幹として編成完結。 爾後同地において警備および陣地構築。 軍令陸甲第一〇六号により第五国境守備隊復帰による人員の一部を編入。 日「ソ」開戦にともない花見山、勝武屯、東風山、荒神山に配備し「ソ」軍と 交戦。</p>						

野砲兵第一二三連隊略歴

通称号

満第五一四部隊
松風第一五二〇五部隊

0987

至自 至自 至自										昭	年 月 日	工兵第一二三連隊略歴 通称号 満第九七〇部隊 松風第一五二〇六部隊
										20		
9	9	9	9	9	8	8	7	3	1	1		
104	8	3	7	2	18	9	10	10	16	16	略	歴
<p>連隊長 少佐 広川文雄</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>孫呉出発。</p> <p>同地において第三、第七作業大隊に編入。</p> <p>孫呉陣地において武装解除。</p> <p>日「ソ」開戦。</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により第五国境守備隊復帰による人員の一部を編入。</p> <p>同日より同地付近の警備および陣地構築。</p> <p>黒河省孫呉において独立混成第七三旅団工兵隊の人員を基幹として編成完結。</p>										略	歴	
											摘要	

0988

昭和		年月日		略	歴	摘要
年	月	日	日			
昭	20	3	1	軍令陸甲第九号により編成下令。 黒河省孫呉において独立混成第七三旅団通信隊を基幹として孫呉において編成 完結。 爾後孫呉付近の警備ならびに通信業務。 花見山陣地において日ソ開戦。 孫呉において武装解除。 建第三作業大隊を編成し孫呉出発。 黒河経由入「ソ」。	隊長 大尉 長谷川 義夫	
		9	9			
		15	13			
		17	9			

第一二三師団通信隊略歴

通称号

満第六二八部隊
松風第一五二〇七部隊

略

歴

摘

要

0989

昭和20年							年月日	略歴	摘要	
9	9	9	8	8	3	1				
中旬	13	13	17	9	10	16				
<p>連隊長 少佐 安倍武雄</p>								<p>通称号 濶第四八部隊 松風第一五二〇八部隊</p>	<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 黒河省孫呉において独立混成第七三旅団野砲隊の一部を基幹として編成完結。 同日より孫呉付近の警備ならびに陣地構築。 日「ソ」開戦とともに主力は孫呉主陣地に対し弾薬糧秣を輸送するとともに一部をもつて二宝山を占領し師団主力の戦闘に参加。 主力は孫呉において解散して南下したが途中「ソ」軍および満人の襲撃をうけ辰清、竜鎮付近で損害をうけ北安に到着したものは僅かであった。 北安において第一、建第二作業大隊に編入。 北安出發。 黒河經由入「ソ」。</p>	

0930

昭						年	月	日	略	歴	摘要
9	9	9	8	8	3						
16	15	14	17	12	10	16					
<p>隊長 大尉 清水 吾一</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p> <p>孫呉出發。</p> <p>孫呉において第六作業大隊に編入。</p> <p>孫呉において武装解除。</p> <p>兵器弾薬の輸送。</p> <p>孫呉、北水台陣地に移動。</p> <p>同日より孫呉付近の警備。</p> <p>黒河省孫呉において編成完結。</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>											

第一二三師団兵器勤務隊略歴

通称号

満第二五部隊
松風第一五二〇九部隊

略

歴

摘要

0991

昭			年	月	日	略	歴	摘要
20								
9	9	8						
	16	14						
<p>孫呉第一陸軍病院よりの差出人をもつて黒河省孫呉において編成完結。 爾後戦傷病者の患者収容、治療等の病院勤務に従事。 主力は孫呉出発、黒河經由入「ソ」。 一部は孫呉出発黒河經由入「ソ」。</p> <p>病院長 医中尉 佐藤 愛平</p>								

0992

昭和20年						第一二三師団病馬廠略歴
年月日						
10	9	9	8	9	3	
2	16	15	18	8	10	16
<p> 軍令陸用第九号により編成下令。 黒河省孫呉において編成完結。 爾後同地にありて病馬收容業務に従事。 日「ソ」開戦。 孫呉において武装解除。 孫呉において第一七作業大隊に編入。 孫呉出発。 黒河經由入「ソ」。 </p>						<p> 通称号 満第六一八部隊 松風第一五二一〇部隊 </p>
<p> 廠長 獣医大尉 櫻本由成 </p>						<p> 略歴 </p>
						摘要

0993

至自至自		昭	年	月	日	略	歴	摘	要
		20							
	9 9 9 9 8	8 8	7	7					
	123 10 5 27	23 9	30	10					
<p>旅団長 少将 宇部 四雄</p>		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 滨江省哈爾濱において第三軍および第五軍隷下各隊よりの抽出人員および現地 応召者をもつて編成完結。 爾後現地応召者の教育訓練および哈爾濱市内の警備に任じた。 日ソ開戦と同時に哈爾濱市街の警備およびその周辺の防衛に任じた。 哈爾濱成高子において武装解除。 同日哈爾濱香坊出発、途中横道河子で下車海林まで行軍。 牡丹江省海林到着。 第一〇七、第一〇九作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>							

独立混成第一三一旅団司令部略歴

通称号 奮進第三七五一二部隊

略

歴

摘

要

0994

昭		年月日	略	歴	摘要
20	7				
7	7				
自	8	8	7	7	<p>通称号 奮進第三七五一三部隊</p> <p>独立歩兵第七七九大隊略歴</p>
自	8	8	7	7	
至	8	8	7	7	
自	9	9	7	7	<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p> <p>浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊より抽出人員と現地応召者をもつて編成完結。</p> <p>爾後同地付近の警備に任じた。</p> <p>日「ソ」開戦にともない哈爾濱市街の防衛に任じた。</p> <p>哈爾濱において武装解除。</p> <p>同日香坊出発、途中横道河子で下車し海林まで行軍。</p> <p>牡丹江省海林到着。</p> <p>同地において第一〇七、第一四九、作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p>
自	10	10	7	7	
至	10	10	7	7	
自	11	11	7	7	<p>大隊長</p> <p>大尉 千田謙三郎</p>
自	12	12	7	7	
至	12	12	7	7	

0995

至自至自		昭	年	独立歩兵第七八〇大隊略歴 通称号 奮進第三七五一四部隊
		20	月	
		日	日	
11	10	9	8	軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 濱江省哈爾濱において第三軍および第五軍の各隷下各隊よりの抽入人員と現地 応召者をもつて編成完結。 爾後教育訓練および同地付近の警備に任じた。 日「ソ」開戦により哈爾濱市内の警備および治安維持。 哈爾濱香坊に集結同地において武装解除。 同日香坊出発途中横動河子で下車し海林まで行軍。 牡丹江省海林に到着。 第一〇九、第一四九作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 大隊長 大尉 田代 栄一
29	2	中旬	5	
			27	
			23	
			9	
			30	
			10	
				略
				歴
				摘
				要

0996

昭		年	月	日	略	歴	摘	要
至	自							
11	10							
29	4	中旬	16	27	23	9	30	10
<p>大隊長 大尉 中野正頼</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>同地において第一〇八、第一四九作業大隊編入。</p> <p>牡丹江省海林に到着。</p> <p>同日哈爾濱香坊出發、途中横道河子で下車し、海林まで行軍。</p> <p>哈爾濱成高子において武装解除。</p> <p>日「ソ」開戦にともない哈爾濱市内の警備および治安維持に任じた。</p> <p>爾後教育訓練および哈爾濱付近の警備に任じた。</p> <p>召者をもつて編成完結。</p> <p>浜江省哈爾濱において第三軍および第五軍の隷下各隊よりの抽出人員と現地応</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。</p>								

独立歩兵第七八一大隊略歴

奮進第三七五一五部隊

0997